

## 【記念講演】

演 題 「小中学校の運動器検診の現状と課題」

講 師 岐阜大学医学部看護学科

教授 にしもと ゆたか 西本 裕 先生

- 学歴 昭和 50 年 4 月 岐阜大学医学部医学科入学  
昭和 56 年 3 月 岐阜大学医学部医学科卒業  
昭和 56 年 4 月 岐阜大学大学院医学研究科入学  
昭和 60 年 3 月 岐阜大学大学院医学研究科修了
- 学位 昭和 61 年 3 月 医学博士（岐阜大学）
- 資格 昭和 56 年 4 月 医師免許  
昭和 63 年 3 月 日本整形外科学会専門医  
昭和 63 年 8 月 日本体育協会公認スポーツドクター  
平成 19 年 4 月 日本障害者スポーツ協会公認障害者スポーツ医
- 職歴 昭和 60 年 4 月 岐阜大学医学部附属病院医員  
昭和 61 年 5 月 岐阜県立岐阜病院医員  
昭和 63 年 9 月 岐阜大学医学部助手  
昭和 63 年 12 月 岐阜大学医学部附属病院併任講師  
平成 9 年 11 月 岐阜大学医学部附属病院講師  
平成 14 年 4 月 岐阜大学医学部看護学科助教授  
平成 17 年 4 月 岐阜大学医学部看護学科教授 現在に至る
- 役員 平成 9 年 10 月～ 中部日本整形外科災害外科学会 評議員  
平成 12 年～ 岐阜県スポーツドクター協議会 理事  
平成 17 年 6 月～ 「運動器の 10 年」岐阜委員会 代表  
平成 19 年 4 月～ 岐阜県体育協会スポーツ医科学協議会 委員  
平成 23 年 3 月～ 日本整形外科学会 代議員  
平成 25 年 6 月～ 岐阜県体育協会 理事



## <講演の概要>

2016年4月から学校健診において運動器検診を実施することとなり、岐阜県医師会の指導のもと小・中学校でも各1学年において学校医による検診が始まっている。各地区において試験的に導入されていた学校もあり、情報は共有されていることと思われるが、運動器検診の意義を考え、今後に関与する取組みについて考えたい。

今年度の運動器検診を担当された養護教諭からは、校医の先生が「専門外なので、」と困ってみえるとの言葉もあり、学校医の先生方の負担感が軽減できるよう検診の際の視点がもっと明確になっているとよい、との意見がある。岐阜県医師会も指針を提供しているが、実際にはその指針のとらえ方の幅が広いのが実状である。

学校健診は疾病のスクリーニングであるとの立場から、一般的に見逃しを少なくすべく多めに要精査の判断をする。しかし運動器の異常については、異常姿勢・動作を示す要因が多く、その日、その時の体調によっても異常と判定されてしまう場合も少なくない。検診の直前に体を動かしているだけで消える異常も多く、それらの多くは正常範囲内である。このことから、可能であれば検診は午後とし、直前に軽いストレッチができることが理想的である。

運動器検診時に異常所見がみられると、身体所見のみで異常なしと判断することは困難で、X線検査が必要となることが多く、二次検診必要と判定されることが多い。

一方、運動器の発達著しい小学校高学年から中学生の時期には、検診で異常なしと判断された場合も、その後に運動器の異常を生じると次の検診までの間に病状が進んでしまっている場合もある。これに対処するには日ごろから身のこなしを観察し、異常姿勢・動作に気づくよう複数の目で見守ることが大切である。担任教諭のみならず、体育担当教諭、養護教諭の気づきを共有すること、また校外ではスポーツ少年団の指導者とも情報共有することにより早めの対応が可能になり、最終的に保護者が主体的にわが子の成長についてより関心を深めることにつながることを期待したい。